



帰依者の部類の人々は別にして、学生たちを指南し、鼓舞し、導いてきたプラシャーンティニラヤムの HJ バギア教授は、神の恩寵の古典的手法に関して伝えるためのたくさんの話をお持ちです。ずっと昔にムンバイの企業の職を辞した後、バギア教授はスワミの“恩寵の懐”に入り、絶対的全託という真の信仰を育てながら、サティヤ サイという大海にしっかりと飛び込んで、深くどっぷり浸かっています。チェティ・チャンド祭の期間に刊行された年代記、“Anmol Yaadgiriun”から、尊敬する教授の生涯に起こった、ある素晴らしい出来事をご紹介します。

あなたはテレビを見ますか？

ある日の夕方、トライー布林ダーヴァン〔ホワイトフィールドのアシュラム〕のセッションで、スワミは人々があまりにも多くのテレビ番組を見ていることに嫌気がさしていらっしゃるように思われた。スワミは、テレビは実際“テレビシャム”（ビシャムの意味は毒）です、とおっしゃった。突然、スワミはこちらを向いて、（私はスワミのジューラ〔ブランコ〕のすぐそばに座っていた）私にお尋ねになった。（会話はすべてヒンディー語だった）…

スワミ：「あなたはテレビを見ますか？」

私：「いいえ、スワミ」

スワミ：「これは驚いた…本当のことを言いなさい」

私：「いいえ、スワミ、私はテレビを見ません」

スワミ：「私の目をじっと見て、本当のことを言いなさい」

私はスワミの目をじっとのぞき込んだが、私がテレビを見ないことをご存知である全知の神が、なぜその質問を繰り返されるのか不思議に思った。同時に、スワミの御言葉にはふんだんに意味が込められているのを知っていたので、きっと何かスワミは私に教えたいことがあるに違いないとも思った。

その瞬間、自分が7歳か8歳のころのある出来事の記憶がよみがえった。私は叔父に連れられ、ある映画館へ夜の映画ショーを見に行った。私たちが帰宅したのは真夜中だったので、祖父は玄関のドアを開けるために起きていなければならなかった。祖父は、叔父が私に悪い影響を与えていると言って、とても腹を立てていた。

翌日の夕方、私は祖父に連れられ、いつもの寺院へお参りした。道中、祖父は私に、映画を見に行って時間を無駄にしてはいけないことを優しく説明した。祖父は言った。

「いいかね…全世界は“ナータカ”、つまりドラマ[劇]のようなもの、絶え間なく続くつまらない娯楽の源のようなものだ。しかし、おまえは“ナータカ”の真の意味を知るよう注意する必要がある。ナータカは“ナ”+“アタカ”だ。“ナ”の意味は「少しも～ない」、そして“アタカ”の意味は「捕らえられる」だ。それはつまり、おまえはこの世のドラマ[劇]に巻き込まれるべきではない、ということなのだ」

心の中に隠れ潜んでいた疑いのクモの巣は今や取り除かれた。少なくとも私にはそのように思われた。私は目の前に座っておられるバガヴァンに再び焦点を合わせ…スワミが私に「テレビ番組を見るかどうか」をお尋ねになった意味について、新しい理解を得たことで自分が少し利口になったように思い、再びスワミとのやり取りが始まった。私は勇気を出して言った。「はい、スワミ、私はテレビを見ております」

スワミ：「ほら、やっと彼は同意した…」

スワミ：(私の話に戻って)「あなたはテレビで何を見ているのだね？」

私：「スワミ、全世界は絶え間なく続くテレビ番組です」

スワミ：(声を大きくして)「なぜテレビのスイッチを入れる？」

私：「それは、自動的に入っているのです、スワミ…(心の中で私はスワミに言った。“愛する主よ、スイッチはあなたのコントロール下にあります”)

スワミ：「いや、そうではない。あなたが何かに興味を示した時、それはあなたが自分で特定のチャンネルにスイッチを入れたことになり、あなた自身がそこに巻き込まれるのだ。そうではないかね？」

私：「はい、スワミ…“あなたはテレビを見ますか？”とおっしゃったご質問の真の意味が、今ようやくわかりました…」

サマスタ ローカーハー スキーノー バヴァントゥー
みんな幸せになりますように